

# 「WRO 2006 国際大会」

## 南寧取材筆記

WRO 国際大会取材するため中国へ……。この人生最大の取材となった5日間を感じたことをメモしてみた(大会については、本誌32ページをご覧ください)。

まつばら 拓也 / (有) ニコ

### 気温がアツイ

向かった先は、中国の「南寧」。飛行機を乗り継ぎながら、丸1日かけて移動。日本チームの面々は、大切なロボットを手に持ち続ける(当然、機内持ち込みです)。

空港から出てみると、11月なのに暑い(約22°C)。ベトナム国境から160kmの地点というだけあって、半袖でいられるほ

ど。道には椰子の木、電飾されたビルが並び、「ケンタッキーフライドチキン」や「ピザハット」もあり、景気の良さそうな街という印象だ。

道路は交通量が多い。路面は悪く、高速道路では文字が書けないほど揺れた。バイクはノーヘル当たり前。信号は少なく、横断歩道は命がけ。「中国では、渡れないと生きていけませんよ」とガイドさん。

テレビをつけると、派手な番組やCMが連発。共産主義のイメージからは程遠く感じられる。

スーパーでは、LEGO ブロックのコピー品を発見(写真掲載は遠慮します)。300円相当のニセモノが、7元(約105円)で売られていた。ロボット玩具は、空港で売られていた「ロボサビアン」しか目撃できず。

携帯電話は、至るところで大人気。道ゆく人が大声で利用していた。



中国・広西チワン族自治区の首府「南寧」。外交と貿易の舞台として、大きな発展を遂げつつある街。



ホテルで組み立て練習を行う「サンダーバード23号」チーム。

### 競技もアツイ

大会当日、巨大なフロアに150ものチームが作業用テーブルに並んで、ほぼ一斉に組み立てスタート。ロボットが完全にバラバラになっている状態から始められるも、その20~30分後にはほとんどのチームが完成させていた。国は違えど、使っているパーツは同じ。LEGO MINDSTORMS という存在の大きさを改めて実感した。

ロボットの調整のために、7つしかないフィールドに選手たちが殺到して、会場は



夜、練習用にとコーラの缶を探す「新人職工」チーム。日本語は通じないが、「コカ・コーラ」は共通語らしい。



競技中の様子。国籍の異なる約500人の選手がびっしりと並び。